オーストラリア姉妹校　派遣レポート

２年２組　蓑輪浩大

８月６日、少し緊張しながら母と空港へ向かいました。空港では、山内先生、水野先生、藤本先生が見送りにきてくださいました。担任の先生が来るとは、聞いていなかったのでとてもうれしかったです。
飛行機は、シンガポール経由での１０時間ほどのフライトでした。海外で乗り換えをするのは初めてだったので、とても不安でした。
機内では、長時間のフライトで少し気分が悪くなりましたが、機内食は、比較的温まっていて美味しかったです。
パースの空港に着くと、校長先生が出迎えてくださいました。空港から、ECC(イートンコミュニティカレッジ)までは、車で２時間ほどかかりました。
ECC に着くと、日本語の先生から、僕の名前入りの ECC のシャツをいただきました。

学校では、ホームステイ先のウォリックと、全て同じ授業でした。
ECC は、日本と同じように８：４０に学校が始まり、１日の授業数は５コマ、(１コマ１時間２分)で、日本のように１０分間休憩はなく、授業が終わると、すぐに次の授業の教室に移動するというしくみでした。

授業風景は、科目や先生によって異なり、比較的自由な授業では、授業中にゲームをしたり、友人と話したりするのは普通。ひどいときには、教室の端と端でペンの投げ合いをしている生徒がいて、エスカレートしていくので、校長先生が授業中に教室にきて、その生徒を呼び出し、指導をしていたりと、日本ではありえないような授業もありました。

ECC では体育(スポーツ)の授業とは別にバスケットボールやサッカーのみの授業があるということや、校長先生が生徒と直接、世間話や指導をしたりするということに、とても驚きました。

↑Sheep Brain Dissection

学校が終わると、ウォリックのお母さんであるリリーの友達二人とその子どもたちが、時々遊びに来て、ディナーをしたり、折り紙をしたり、カンガルーをみたり、映画を見にいったりと、平日でもとても充実した１日１日でした。

休日は、ウォリックのフットボールの試合を見に行ったり、リリーの友達とも一緒にパースの町に行きました。リリーはとてもフレンドリーなので、日本人留学生らしき人を見つけると、必ず喋りかけて、僕の紹介をするので、その人と少しだけ気まずくなります。スーパーでウォリックと「これ美味しそう‼」と話をしていると、隣にいた知らない人から「それ美味しいよ‼」と話しかけてきたので、オーストラリアの人はとてもフレンドリ

ーだなと思いました

僕はホームステイ先へのおみやげとして、醤油やだし、そうめん、クッキー、お茶、文房具などを持っていきました。そうめんを作ると、美味しいとは言っていたのですが、顔はあまり美味そうに見えませんでした。
クッキーが一番喜んでいるように見えました。

そして、日本へと帰る一日前に、小人の森という、数え切れないほど多くの小人の人形がおいてある森に連れて行ってもらったり、お別れパーティーをしてもらったりと、一番思い出にのこる一日でした。

オーストラリアではオープンな人が多いので、陰口などはあまりなく、喧嘩をするときは直接言い合うというのがとても良いと思いました。

この派遣で実感したことは自分の英語力の低さです。「これを言いたい‼」と思っても、うまく英語で伝えることができないので、すごくもどかしい気持ちになりました。

ウォリックとは学校でも家でもずっと一緒だったので、オーストラリアの学生の一日の暮らしというのを詳しく知ることができました。

この姉妹校派遣は一生に残る、とても良い思い出になりました。